



紙屋町交差点付近（昭和初期）

特別展「路面電車 100 年～今も昔も広島を路面電車 が走っていく～」

大正元年（1912）11月23日、広島市内で路面電車の営業運転が始まりました。開業当時の絵葉書の写真には沿道に大勢の見物人の姿が見えます。当時の市民にとってめずらしい乗り物であった路面電車は、100年後の現在も広島を走り続けています。かつては全国各地の都市で走っていた路面電車も、昭和30年代後半からのモータリゼーションの進展によりしだいに姿を消していきました。最新の超低床車両、戦前から活躍している車両、他都市から移籍してきた車両など様々な路面電車が行き交う広島は、今となってはめずらしい都市の風景なのかもしれません。

（2 ページへ続く）

目次

- 1-3 特別展「広島路面電車 100 年」
- 4 企画展「干潟の恵み」
- 5 企画展『『ごんぎつね』が語る昔の暮らし』/
駄菓子作り広場
- 6 コラム「糧秣支廠の名残—寄贈絵葉書より—」
- 7 新着収蔵資料 / 新刊紹介 / 活動報告
- 8 平成 24 年度をふりかえって / 来年度の展示案内

特別展

「広島路面電車 100 年 ～今も昔も広島の街を路面電車が走っていく～」

会期：2012 年 10 月 20 日（土）～ 12 月 16 日（日）



特別展関連イベント「路面電車ひろば」の様子

広島で路面電車が開業して 100 年という節目の年に、広島市郷土資料館において特別展「広島路面電車 100 年」を開催しました。開催にあたっては、広島電鉄株式会社、日本路面電車同好会中国支部、街づくり研究会、その他関係者の皆様に、資料提供やイベント開催などで多大なご協力をいただきました。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。おかげさまで特別展開催中はたいへん多くの方にご来館いただき、盛況のうちに無事終了することができました。とりわけ印象に残ったのは、幼児からご年配の方まで年齢や性別を問わず幅広い世代の来館者が目についたことです。あらためて「広島路面電車」が多くの人に親しまれている存在であることを実感しました。

では今回の展示内容について振り返ってみます。まず「路面電車の開通と広島発展」のコーナーでは、開業から戦前・戦中・戦後にわたり郷土広島の歴史とともに歩んできた「路面電車」100 年の歴史と広島街の発展について、現物資料や写真パネルで紹介しました。なかでも特に注目されたのが、明治時代末に広島市内への軌道敷設特許状を得た広島電気軌道株式会社による用地買収に関わる書類でした。これは広島電鉄株式会社に保管されていた書類の中から発見されたもので、軌道敷設用地（現在の中区銀山町・胡町付近）の詳細な建物の平面図が残っていました。また立ち退きに関する補償金額の見積書には、建物部分だけでなく庭石や庭木一本に至るまで細かく記載されていました。これらは今回が初公開となりましたが、保存状態もよく明治時代末の広島市内の街並みを知る手がかりにもなる貴重な資料でした。

路面電車開業時に広島城の城濠や西塔川の埋立地上に軌道が敷設され、現在の広島市内の街並みの原型ができあがったともいえます。その後も路線の拡大とともにその沿線に市街地が形成されていきました。大正 11 年（1922）には鉄道宮島線が開業し以後延長されていきましたが、同時期に計画されていた路線の存在も明らかになりました。皆実町～船越町～海田を経て呉市に至る呉線や、広島市内から可部町～上根峠を経て高田郡吉田町（現安芸高田市）に至る吉田線などで、敷設計画の実測平面図も一部展示しました。実際には実現しませんでした。もし実現していればその後の市街地形成にも大きく影響していたかもしれません。

昭和 20 年（1945）8 月 6 日、広島市に原子爆弾が投下され、市街地は一瞬のうちに壊滅しました。市内全線が不通となり路面電車 123 両中 108 両が被災し、架線や変電所などの設備も甚大な被害を受けました。懸命な復旧作業により原爆投下の 3 日後から一部区間で運転が再開され、焼け野原を動き出した路面電車の姿が多くを市民を勇気づけたといわれています。戦後、都市の復興が進む中で軌道移設工事が行われ、カーブ優勝時には花電車が広島市内を走り、近年では超低床車両の導入や横川駅や広島港など他の交通機関との交通結節点の整備が進められてきました。そうした市民生活や広島街の発展と路面電車の歩みをたどりました。



開業 100 周年記念花電車

つぎに「路面電車の開通と宇品の発展」のコーナーでは、郷土資料館の所在地である宇品地区と路面電車の歴史を取り上げました。宇品地区で路面電車が開通したのは大正 4 年（1915）4 月 3 日、御幸橋東詰から西堤防沿い

を通過して宇品橋前までの区間でした。開通当時は御幸橋の西詰から東詰までを徒歩で連絡していました。大正8年(1919)に御幸橋上流側に軌道専用橋が完成し、広島駅前から宇品行きの電車が運行されました。開通当時は現在の郷土資料館のすぐ西側を路面電車が走っていたこととなりますが、今も付近の公園や道路の一部にその名残を見ることができます。昭和10年(1935)には現在の宇品通りに電車軌道が複線化して移設されました。戦後宇品地区は大きく発展し、街の景観はすっかり変わりましたが、路面電車は今も変わらず走り続けています。

そして「路面電車車両の歴史」コーナーでは、戦前・戦中に活躍した車両、戦後に活躍した車両、現在活躍中の車両を写真パネルで紹介しました。その中には現在も活躍中で被爆電車として有名な651号の被爆前の姿を記録した貴重な写真もありました。また日本路面電車同好会の協力で開業当時から今日に至るまで約40種類の路面電車模型(HOゲージ)を展示しましたが、その細部まで精巧に再現された模型が子どもから大人まで多くの人を魅了していました。



展示会場風景

最後に「広島の路面電車の未来像」のコーナーでは、LRT(次世代型路面電車ともよばれる近代的な路面電車システム)に注目しました。欧米においては、近代的な高性能車両を導入しながら自動車や歩行者との共存がはかられており、新しい都市交通システムを取り入れた街づくりが進められています。その様子を写真パネルで紹介するとともに、これまで広島電鉄により行われてきた先進的なLRT化への取組を重ね合わせることで、広島の路面電車の未来像をさぐりました。

また、今回路面電車の展示という雰囲気づくりのため、

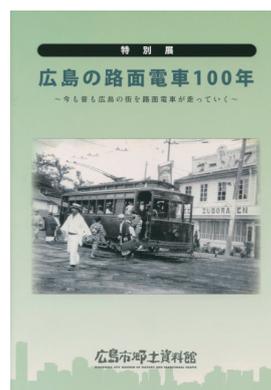
1階の床面に原寸大の軌道敷をフィルムシートで再現し、路面電車を模した映像コーナーを設置しました。上映した映像は「大正時代の電車」(大正15年)、「戦前の広島市内」(昭和3年)、「被爆直後の広島市内」(昭和21年)で、いずれも路面電車が走っている場面を中心に編集しました。電車だけでなく街並みや通りを行き交う人々の服装など当時の世相をうかがい知ることのできる貴重な映像で、来館者にもなかなか好評でした。

今回の特別展を通して、開業から100年にわたり多くの市民に親しまれ、広島の街の発展とともに歩んできた「路面電車」の存在を再認識することができました。平成25年(2013)2月には、広島電鉄最新の超低床車両1000形が広島市内を走り始めました。広島駅前の整備にともなう新規路線の計画も取りざたされています。これからも路面電車はLRTとして進化を続けながら広島の街を走り続けるでしょう。(牛黄著 豊)

関連図録

「広島の路面電車100年」

～今も昔も広島の街を路面電車が走っていく～



A4判 40ページ 税込500円(完売)

電車の車体写真はもちろん、戦前から戦中、戦後にかけて広島の街を走る電車の風景写真や絵葉書も多数掲載しています。昔懐かしい沿線風景や、回数券、記念きっぷなどの電車グッズ写真もつめこんだ、鉄道ファンにとっては垂涎の一冊です。大好評をいただき開催期間中に完売してしまいましたが、資料館の図書閲覧室のほか、市立図書館などで閲覧することが可能です。興味のある方はぜひご覧下さい。

企画展

「干潟の恵み～カキとノリの物語～」

会期:2012年1月19日(土)～2013年3月24日(日)

広島伝統的地場産業として、全国的にも知名度の高いカキ養殖。このカキ養殖とともにノリ養殖が全国トップクラスの生産量を誇った事実は地元でもそれほど知られていません。今回の企画展では、干潟を舞台に成長したカキ養殖・ノリ養殖の歩みを振り返りました。

カキ養殖の開始については、早いものでは室町時代後期、また、産地ごとに江戸時代前期頃に干潟で始まったとの伝承があります。その後、草津で始まったカキ船は大坂へカキを販売に行き、広島カキのブランド確立に大きな役割を果たしました。

江戸時代から昭和初期までのカキ養殖の方法は、ひび立て養殖法と呼ばれるものでした。ひび立て養殖法では、干潟にひびと呼ばれる枝付きの竹を立て並べ、カキの幼生を付着させて採苗を行い、そのまま成長させるか、ある程度大きくなったカキをひびから打ち落とし、カキの成長に適した干潟に運び、さらに成長させます。このひび立て養殖法は明治以降の埋め立てによる干潟の減少で大きな転機を迎えました。

大正15年(1926)に、広島県水産試験場草津支場により、筏による垂下式養殖法の試験が実施されました。同じ年には、カキ生産者による杭打による簡易垂下養殖法の試験が実施され、いずれの試験も良好な結果を得ました。昭和初期には簡易垂下養殖法が普及し、第二次世界大戦後の昭和20～30年代にかけて、筏式垂下養殖法が拡大しました。筏式垂下養殖法では、それまでよりも養殖面積は拡大し、垂下連も長くなったため、生産量は飛躍的に増加しました。昭和40年代には、広島県が全国のカキ生産量の70%を超えるまでになり、現在でも、全国生産量の50～60%を推移しています。

ノリ養殖は、江戸時代中期頃に、干潟で始まったと産地ごとに口承で伝えられています。また、ノリを抄いて板海苔に仕立てる抄製法についても、口承で江戸時代後期が開始時期とされています。養殖法・抄製法の発祥地とされる江戸に次ぎ、全国的にも広島湾はノリ養殖・抄製の古い歴史を持っています。

広島湾のノリ養殖では、竹ひびを干潟に刺してノリの胞子を付け、成長させる方法が江戸時代中期から昭和中期までの長い期間行われています。ノリ抄きは、細かく刻んだノリと水を桶の中でまぜ木杵で挟んだ簀で紙を漉

くように海苔を抄く「家鴨付け」と呼ばれる方法でした。

広島でノリ抄製が確立した江戸時代後期は、江戸の商人にノリ販売の主導権があったため、広島ノリは大坂商人に注目されました。大坂市場で広島ノリが重要な商品になると、広島藩は専売に近い統制をするようになります。その後、明治24年(1891)には全国一位の生産量を誇るようになりますが、干潟の減少や新興産地の台頭で次第に順位は下がっていきます。とはいえ養殖技術の発達もあり、昭和30年代には戦前戦後通じて最大の生産量となります。しかし、昭和30～40年代には、仁保沖、吉島沖、観音沖が埋め立てられ、九州有明海沿岸などの産地に質・量ともに押されるようになります。そして、昭和46～57年(1971～82)の西部開発事業により、当時最大の草津・井口沿岸の養殖場が消滅し、広島湾でのノリ養殖業は成り立たなくなってしまいました。とはいえ、現在でも、ノリ加工業者の存在に昔日の面影が見られます。

本展では、養殖の歴史・方法を紹介する中で様々な資料を展示しました。「広島湾牡蠣養殖図」(広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター所蔵)と「広島湾海苔作業工程図」(金井征男氏所蔵)は、明治時代前期に同一の絵師によって描かれた双幅の資料です。この二点は1995年に東京の大田区立郷土博物館で写真パネルで展示されていますが、実物がペアで展示されるのは数十年ぶりのことでしょう。地元で絵に心得のある人が描いたものと思われ、決して上手い絵とはいえませんが味のあふれる絵でユネスコ世界記憶遺産に登録された山本作兵衛の炭鉱記録画を彷彿とさせます。



双幅の養殖図

この二つの絵に描かれた干潟を舞台に共同で働く人々の姿は日本の経済成長と共に過去のものとなってしまいました。本当の「豊かさ」が論じられる現在、こうした過去を忘れずに振り返ることには意味があるのではないのでしょうか。(田村 規充)

企画展

『ごんぎつね』が語る昔のくらし

会期:2012年9月8日(土)～12月24日(日)

毎年恒例となっている『ごんぎつね』が語る昔のくらし展が今年もやってきました。

「ごんぎつね」は新美南吉の書いた童話で、小学校の教科書に長い間掲載され続けている作品です。



展示風景と関連事業「紙芝居とおはぎ作り」の様子

この企画展では、物語に登場する道具にスポットをあて、各場面の情景を再現・展示しています。展示期間中は、社会科見学の一環として、多くの学校団体が来館され熱心に勉強する姿が見られました。こういった古い道具は今では使われることがなく目にすることも少ないので、子どもたちには目新しい体験になったのではないのでしょうか。

さて、この企画展では、展示内容の工夫が毎年の課題となっています。去年と全く同じ内容では物足りないかもしれない、けれど大きく変えてしまうと期待した内容と違うということもあります。今回は展示室にクイズパネルを置くという試みをしました。クイズの内容は展示してある道具に関わるもので、会場をよく見てみると答えが見つかります。自分で探し考えるという楽しさと、解説する学芸員がいないときでも学習できる利点があり、この試みは受け入れられたようでした。

来年度も『ごんぎつね』が語る昔のくらし展は行われます。来年は今年とどこが違っているのか、探してみるのも面白いかもしれません。

(後藤 茉莉江)

「駄菓子作り広場」

～2012年11月3日文化の日イベント～

郷土資料館では、文化の日の無料開放にあわせて、「駄菓子作り広場」を開催しています。昔懐かしい一銭洋食・カルメラ焼き・綿菓子・型ぬきなどで、多くのお客さんに楽しんでいただいているのですが、今年は新しいメニューを考案することになりました。

みんなで思案するうちに、「そういえば昔、お母さんが片栗粉と砂糖にお湯を混ぜて、ゼリーみたいなお菓子を作ってくれた。」という話が出てきたのです。それは面白そうということで、食べた事も作ったこともないのに、無謀にチャレンジ開始!

その日から数日間、ひたすら片栗粉をお湯で溶いたものを食べ続けました。ほどよくゼリーみたいな硬さにし、かつ見た目が透明でないと、なんだか粉っぽい菓子みたいな味になってしまいます。美味しい状態にするには片栗粉とそれを溶く水、そして注ぐお湯の分量の加減が重要で、その上でお湯の温度を下げないことが必要でした。「ホントにできるのかしら」と不安に思いつつ、数えきれないくらい片栗粉を食べ続けた結果、遂に理想のゼリーを作る方法が分かったのでした\(^o^)/。

そのままでも充分美味しかったのですが、試しにきな

粉をかけると、わらび餅のようになって更に美味に! その名も「あったかわらびもち」としてデビューしました。こども達は粉がゼリー状に変化するたびに歓声を上げていましたし、大人の方にも懐かしんでいただきました。

当日は幼児から大人まで約6,400人の方々にご参加いただきました。どこのブースにも長蛇の行列ができ、少なからずお待ちいただくことになったのは恐縮でした。しかし、当日は多くのボランティアも運営スタッフとして参加していただいております。ボランティアさんたちの奮戦で皆さんに楽しい時間を過ごしていただけたと思います。職員・ボランティア、そして参加者の方が一体となって楽しむことができるこのイベントを、今後も大切にしていきたいです。

(本田 美和子)



今年もたくさんのお客様が来て下さいました。

コラム

「糧秣支廠の名残」

～寄贈絵葉書より～

今年度寄贈を受けた資料の中に、当館建物の前身である宇品陸軍糧秣支廠内の施設を写した絵葉書があります。そのいくつかを紹介しましょう。

①は、缶詰工場（現郷土資料館）の南側に広大な敷地を占めていた搗精工場の一角を撮影したものです。画面の下隅には、大正15年（1926）4月の日付が印字されています。この工場は、明治40年（1907）に陸軍が民間経営の搗精施設を買収して設置されました。調達された玄米や裸麦はここで精米・精麦に加工され、各部隊に補給されました。また、搗精技術に関する試験や研究も行われていました。

②には、缶詰工場の北にあった食肉処理場のレンガ造り建物と、缶詰用に処理された牛の靈魂を慰める牛魂碑が写っています。画面隅に「八木トンボ堂」のエンボス印があるだけで、撮影年代等は記されていません。大正時代には、この処理場での屠牛数が年間約7,000頭にのぼったという記録があります。多くの肉牛が健康状態等の厳しいチェックののちに食肉とされ、隣接する缶詰工場で速やかに缶詰加工されたのでした。

ところで、糧秣支廠関連施設で往時の姿をとどめているのは、当館建物以外ほとんどありません。そんな状況の中、これら2施設に関しては、わずかですがその痕跡が現在まで残されているのです。

まず搗精工場については、平成20年（2008）に跡地が宅地等として再開発された際、地下から写真③のようなものが見つかりました。並行して伸びる軌道が2列、これはまさに①の工場前に敷かれているトロッコ線路そのものでした。このレールは、現在その一部が当館に保管されています。



③姿を現したトロッコ線路

一方の食肉処理場の建物は、昭和24年（1949）から平成18年（2006）までカルビー株式会社が長く使用していましたが、同社の移転とともに翌19年に解体されました。ところが、幸いにもその一部分が廿日市市内の新工場内に現存しているのです。それは、建物に使われていたレンガを使って新たに製作された壁型のモニュメントです（写真④）。モダンで明るい工場の中で、その一角だけは重厚な雰囲気だけがただよっており、まるで壁自身が自らの長い歩みを語りかけてくるようです。

終戦とともに宇品陸軍糧秣支廠が消滅して約70年。これら2つの“名残”は、郷土広島の歴史の生き証人として、ひっそりと、しかし確実に時を刻み続けています。

（稲坂 恒宏）



①絵葉書「宇品陸軍糧秣支廠搗精工場」



④食肉処理場の
移築されたレンガ壁



②絵葉書「牛魂碑及び食肉処理場」

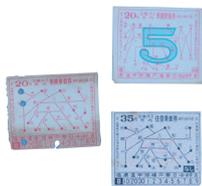
新着収蔵資料

平成24年度11月から3月に寄贈いただいた資料です。

資料名	点数	寄贈者(敬称略)
人造石(写真①)	1	広島刑務所
写真「西志和村の葬列」	1	個人
乗車券(写真②)	15	二反田 正康
鉄道遭難者追吊塔建立記念絵葉書(写真③)	8	有吉 英治



①人造石



②乗車券(一部)



③鉄道遭難者追吊塔建立記念絵葉書(一部)

新刊行物紹介



図録

「干潟の恵み〜カキとノリの物語〜」

A4判 66P 税込 500円

企画展の展示図録を發刊しました。企画展ではカキ養殖とノリ養殖という二つの地場産業について、江戸時代にまでさかのぼる歴史やその方法、発展と衰退について、写真や

絵画、道具などの資料から紹介しました。

図録では展示品を収録したほか、くわしい解説も掲載しております。また、懐かしい干潟の風景写真も多数紹介しています。



資料解説書「大正時代の広島」

A4判 56P 税込 360円

好評につき完売していた「大正時代の広島」が復刊しました。その名の通り、大正時代の広島の様子が修学旅行の内容が分かる一冊です。

刊行物は当館ミュージアムショップほか、通信販売でも受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

活動報告

教室事業

- 10月8日(祝) まゆ玉工作
- 10月14日(日) 伝統技術を学ぶ(大人)
- 11月25日(日) 絵手紙で年賀状作り
- 12月2日(日) 絵手紙でお年玉袋作り(大人)
- 12月16日(日) 羽子板作り
- 12月22日(土) もちつき体験
- 23日(祝)
- 1月14日(祝) 郷土料理作り(大人)
- 1月26日(土) 磯の香り!ノリスズキ体験
- 2月2日(土)
- 2月9日(土) パウムクーヘン作り
- 10日(日)
- 2月17日(日) 江戸時代のカキ船料理体験(大人)
- 2月22日(金) パウムクーヘン作り(大人)
- 3月3日(日) ひな人形作り
- 3月9日(土) わらざるうり作り

イベント

- 11月3日(祝) 駄菓子作り広場
- 11月11日(日) 路面電車見学体験ツアー
- 11月18日(日) 路面電車ひろば

その他の事業・館外活動など

- 10月3日(水) 亀崎小学校にて「昔の暮らし(石うす・天秤棒)体験」
- 10月7日(日) 秋のグリーンフェア2012にて「楽しいのぼり人形づくり」
- 10月8日(祝) 第2回ひろしま紙芝居祭にて「昔のあそびコーナー」
- 10月12日(金) 広島城「二の丸夜話」にて講座「絵画の鑑賞」
- 10月25日(木) 広島市老人大学にて講座「水都の歴史」
- 10月26日(金) 安芸区図書館・千葉家住宅にて郷土史講座「西国街道の風景」
- 10月27日(土) ボランティアフェスティバルにて「ラムネ菓子作り・かんたん工作」
- 11月23日(祝) ボランティア研修にて「平清盛関連史跡めぐり(バスツアー)」
- 11月26日(月) 祇園公民館にて講座「赤穂事件と広島〜知られざる忠臣蔵〜」
- 12月13日(木) ふるいちねりん大学にて講座「赤穂事件と広島」
- 1月12日(土) 広島市立大学にて集中講座「平和インターンシップ」
- 2月4日(月) 広島市老人大学院にて講座「水都の歴史」
- 2月15日(金) ボランティア・シティガイドひととき勉強会にて講座「広島の水辺と住民の生活について」
- 2月20日(水) 全国科学館連携協議会中四国ブロック会議にて事例発表「近代化遺産の博物館への転用および地域での活用」
- 2月23日(土) 広島学セミナーにて「広島湾 漁業の歴史や自然、特産品について学ぶ」第4回「漁撈の歴史〜広島湾の漁撈の歩み〜」
- 3月7日(木) みさき元気アップのれんにて「藍染め体験!自分だけのオリジナルハンカチを作ろう」

おわりに

「平成 24 年度をふりかえって」

早いもので平成 24 年度もまもなく終わろうとしております。

当資料館は平素から市民の皆さんのニーズにあった運営活動に心掛けてきているところでございます。

今年度も、広島市の発展と路面電車の 100 年を紹介した特別展「広島市の路面電車 100 年」を始めとし、企画展「雁木」、「ごんぎつねが語る昔の暮らし」、「干潟の恵み」、大河ドラマ関連企画巡回展「平清盛の時代と瀬戸内海」そして夏休みイベント「おばけの夏休み」と各種展示活動を実施するとともに、バラエティーに富んだ各教室を開催し、多くの市民の皆さんにご来館いただきました。まことにありがとうございました。

また、当館としては博物館の使命ともいえる資料の収集・調査・保存についても、平素から鋭意努力してきているところでございます。これからもチャレンジ精神を忘れることなく、皆様のご支援、ご協力をいただきながら、ご期待にそえる郷土資料館にしていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

(館長 新田 清治)

企画展
のご案内
2013

企画展 ワラのあった風景

2013 年 4 月 13 日 (土) ~ 6 月 30 日 (日)

昔「稲ワラ」は様々な生活道具を作る材料になっていました。多彩なワラ細工の世界を紹介するとともに、ワラに親しみながら、その秘められた力にせまります。



企画展 涼む～涼をとる道具・風習～

2013 年 7 月 6 日 (土) ~ 8 月 31 日 (土)

夏の暑さをしのぐための涼をとる風習や道具を紹介し、現代社会における省エネについて考えます。

夏休みイベント おばけの夏休み

2013 年 7 月 20 日 (土) ~ 8 月 31 日 (土)

今年も郷土資料館でおばけの夏休みをのぞいてみよう。歴史資料館ならではの「おばけ屋敷」を開催します。

特別展 絵葉書の中の広島

2013 年 10 月 26 日 (土) ~ 2014 年 1 月 19 日 (日)

被爆前の広島を捉えた絵葉書を通して、郷土広島の知られざる歴史を再発見します。



現在の本通り商店街西詰め (個人蔵)

企画展 「ごんぎつね」が語る昔の暮らし

2013 年 9 月 7 日 (土) ~ 12 月 23 日 (月)

童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や情景を再現して、昔の暮らしを紹介します。

企画展 陸軍の三廠～宇品線沿線の軍需施設～

2014 年 1 月 25 日 (土) ~ 3 月 23 日 (日)

戦前、鉄道宇品線の沿線に設けられていた陸軍軍需施設の歩みと広島市の歴史の中で果たした役割について紹介します。